

令和3年度第1回明石市文化財保護審議会（令和3年8月13日開催）における  
明石市文化財保存活用地域計画に関する委員の主な意見と市の意見への対応

区分	主な意見	意見への対応
序章	「歴史文化」という用語は行政用語であることは理解できるが、「歴史」と「文化」に分けるか、「歴史・文化」とすべきではないか。	ご意見の「歴史文化」は行政用語ですので、文化庁の指針に示されている「歴史文化とは、本地域計画では、歴史文化遺産とそれに関わる様々な要素とが一体となったものであり、歴史文化遺産が置かれている自然環境や周囲の景観、歴史文化遺産を支える人々の活動に加え、歴史文化遺産を維持・継承するための技術、歴史文化遺産に関する歴史資料や伝承等の歴史文化遺産の周辺環境を含む概念を示す用語と定義づける」と用語の定義を追記します。
序章	KPIについて、数値化するときにこれまでの取り組みを再度確認することが大事である。つまり、明石市が歴史や文化に対してこれまでやってきて、とても評価が高く、自分たちが誇れることは何なのかというところを再度確認することが本当は一番大事である。	ご意見にそって、KPIの数値目標については、これまでの取り組みのなかで評価すべき項目等を参考に指標としていることを説明に追加します。
第1章	明石市の歴史のなかで、市民が選択して今の明石市があるので合併した経緯は記載していく必要がある。	ご意見にそって、第1章に、合併の経緯について記載を追加します。
第3章	明石市の歴史文化の特徴について「町衆が築きあげてきた歴史文化」とあるが、明石市の歴史文化は町衆だけでなく、旧士族、漁民、農民、手工業者も含めて築きあげてきたものである。町衆という用語を削除することも考えられる。	ご意見を参考に、旧士族、町衆、漁民、農民、手工業者も含め、築きあげてきた歴史文化が明石市の特徴であるため、町衆を人々と言い換え、「人々が築きあげてきた歴史文化」と修正します。
第3章	歴史文化の特徴のひとつである近代都市を牽引した歴史文化では、近代で動きが止まっているような印象を受ける。	ご意見にそって、「近代・現代の明石を形成した歴史文化」と修正します。
第4章	市史編さんをどのように今後につなげていくかなどについて、地域計画のなかに記載されていないのではないか。	ご意見の市史編さんについては、第4章のこれまでの取り組みのなかで、市史編さんに関わる取り組みについて概説し、その取り組みを継続するため、第5章の措置2のなかで市史の編さんに関わる調査の継続とその成果の定期的な発信について記載しています。
第4章	明石焼のみならず、あまり知られてない、一般化していない食文化やかつての季節毎の食べ物などについて、記載されていない。	ご意見の明石焼以外の食文化については、第3章に記載していますが、第4章の取り組み課題として、「食のまち明石固有の食文化などの調査及び調査結果の発信を進めることが重要である」とし、第5章の措置5で「食文化の把握調査・魅力発信」を進めることとしています。

第5章	明石市立文化博物館は展覧会を実施したりして、明石市の特色を市民に報告してきているので、それを活用した方が良いのではないかと。	ご意見のように、第5章の措置34のなかで、文化博物館の拠点機能の拡充をあげるほか、第6章の措置（重2）のなかで、文化博物館における講演会の実施などをあげ、文化博物館の活用を推進することとしております。
第6章	重点区域設定について、海でつないでいく明石、海岸でつなぎ人が動いていく明石、陸路の山陽道沿いで動いている明石など、空間軸と時間軸で、流れを捉えることに重点を置くことが今までの調査や取り組みでも進められている。流れや動きを捉えるよさが、重点地区形成に活かされてもいいと思う。	ご意見にそって、重点区域は指定等文化財を含め、歴史文化遺産が集積している明石東部としていますが、それ以外の地域とも海路や陸路を中心に人や物の動きが繋がっているため、それらと関連づけて取り組むこととします。
第8章	市史編さん作業に関わっておられる神戸大学大学院地域連携センターが、連携する団体のなかに記載されていない。	ご意見にそって、「神戸大学大学院地域連携センター」を追記します。
概要版	概要版の歴史の経緯が明石東部地域に偏っているという印象を受ける。章の扉の概要をまとめたものであると思うが、5つの地域の多様性が明石市の特徴であるので、概要版の市の概況については記載を修正する必要がある。	ご意見にそって、上記の意見もあわせて、概要版の記載を修正します。